

別記様式

		担当課	総合政策課
会議の名称	平成29年度 第1回鴻巣市総合教育会議		
開催日	平成29年10月16日(月)		
開催時間	午後1時15分 開会 ・ 午後2時20分 閉会		
開催場所	鴻巣市役所本庁舎 302・303会議室		
議長氏名	鴻巣市長 原口 和久		
出席者(委員)氏名 (出席者数)	鴻巣市長 原口 和久 【教育委員会】 教育長 武藤 宣夫 教育長職務代理者 石原 完 教育委員 河野 英智 教育委員 満井 康江 教育委員 丸山 まゆみ (6名)		
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	なし		
執行部及び事務局 職員職氏名	【市長部局】 企画部長 望月 栄 企画部副部長 榎本 智 【教育委員会】 教育総務部長 田中 潔 学校教育部長 服部 幸司 教育総務部副部長 大澤 昌弘 教育総務課長 岡田 和弘 学校支援課長 池澤 道弘 【事務局】 総合政策課長 齊藤 隆志 総合政策課副課長 谷 広明 総合政策課主任 羽鳥 敦		
傍聴の可否 (傍聴者数)	可 (無し)		
会議の内容	(協議事項) 1 鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について 2 外国語教育の推進について 3 その他 (決定事項など) 協議1については、次のような意見交換がされた。 ・少子化による小学校の統合、中学校の適正配置については、喫緊の課題であり、笠原小学校では未就学児の保護者がグループを作ってこれからの笠原小学校の在り方について考えている。未就学児の保護者を含む当事者の意見をしっかりと聞くべき。 ・川里地域では3小学校の統合という噂が先に広がり、地元意識の強い方の反対が大きかった。 ・同じ小学校に通う児童が違う中学校に進学する地域があるが、やはり同じ中学校に通える通学区域割りを検討すべきだと思う。また市外の保育園や幼稚園に通う未就学児も多い。未就学児から小学校、中学校までの教育を地域ぐるみで考えていく必要がある。		

- ・吹上北中学校ができたときに、吹上北中学校の生徒が吹上中学校に負けなように、先生も生徒も勉強や部活動に積極的に取り組み、その自主的な活動が評判になってNHKでも取材をされたことがある。
新しい学校ができることで、子供たちや地域にとって良い面が出てくるのではないか。
- ・中学校の適正配置とあわせて小学校の適正規模についても早急に検討すべきである。宮地一丁目の通学区域の検討や笠原小、中央小などの在り方についても早急に対応していただきたい。
- ・保護者の方もこれからの少子化の現状を見ていくと、適正規模にしてもらいたいという気持ちも必ずあると思う。笠原小学校の未就学児の保護者の勉強会などもそのひとつ。複式学級という教育環境よりもある程度の規模の中で子供に育ててもらいたいという意向は必ずある。
- ・地元の小学校がなくなったとしても、子供を含めてその地域住民が変わるわけではなく、例えば地域のお祭りやスポーツクラブ、敬老会などがあり、具体的にはあまり変わらないかもしれない。気持ちの問題が一番なのではないか。
- ・通学区域の見直しについては、上尾道路の影響を受ける田間宮、馬室、南小学校の一部や鴻巣西中学校の児童生徒の安全対策と、通学区域の見直しを早急に取り組むべき。
- ・将来の子供のことを考えれば、川里地域は小中一貫が必要だろうし、地域的にもできるのではないかと考える。
- ・小規模の小学校では1学年1クラスのため、運動会では同じ教室の仲間が別々に分かれて紅白対抗となっている。
1学年に2クラス、3クラスあって、クラス対抗によりそれぞれの教室内の連帯感を育むといった教育も大切だと思う。
何が一番いい教育環境かというのは非常に難しいが、適正規模、適正配置について、いろいろな意見を吸い上げて考えていくべき。

協議2については、次のような意見があり、実施に向けた課題等について確認した。

- ・文部科学省の指定を受け、現在外国語活動に取り組む川里地域の学校では、子供たちが楽しそうに活動をしている。ただしこれを市内全域に広げる際、特に5、6年生を受け持つ先生の負担も相当なものになるので、教育委員会として支援していかななくてはならない。
- ・すべての先生が同じようにできるわけではない。英語のレベルにも差があるのは当然だし、指導に不安のある先生も多くいると思う。
現在ALTを市職員として採用しているが、同様に優秀な人材を市職員として採用し、市内の学校で活躍してもらうことも検討していきたい。
- ・子供たちが中学校に進学した際、小学校での勉強における差が生じないように、また英語教育を担う先生のためにも中学校の英語教員との連携、小学校の先生への研修、中学校英語教員OBの活用、補助教材の充実などの工夫をする必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の段階における外国語の教科化はとてもいいことであるが、それによる他の教科への影響も考慮しなければならない。読書や総合学習も子供の成長にとって大切な勉強であるので、バランスの良い教育課程をこの移行期間で検討する必要がある。 ・教職員の研修やサポート、中学校と小学校の連携など教育委員会としてしっかりと検討し、意見で出たような様々な環境を整えてこの移行期間の対応を行いたい。
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 第1回鴻巣市総合教育会議 次第 ・答申書（鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について） 資料1 ・鴻巣市の小学校英語教育移行期間先行実施について 資料2

注 会議の内容の欄は、主な意見や質疑内容を交えて概要を記入し、記入事項が多い場合は、別紙に記入するものとする。